

- ◆私たちがシラバスを書くということは、草稿を書き、改訂し、フィードバックを組み込み、洗練させ、そして可能ならばいつでも改善させるというプロセスであるということを認識することから始まる。
- ◆「BEING ALIVE」で探究する生徒には、情報とガイダンスが必要であるため、その点で本シラバスは、生徒が十分な情報を得たうえで、自身が学ぶ講座を選択するための一助となる。

コーディネーター 北海道札幌月寒高等学校 村中 幸一
コミュニティ 第1学年（生徒 320 名） 第1学年団（教員 19 名） パートナー（大学・企業・公共機関・非営利セクター）専門家・研究者・実践家・実務家
ミッション （存在意義を定める） 世界にポジティブな変化をもたらし、よりよい未来へと導くことができる人を育てる ○アイデンティティ型ミッション：社会の中でどうありたいか 「いま高校生に必要な学びとは何か」を追究し続ける ○パーパス型ミッション：社会に何を働きかけたいのか 新しい可能性を生み出す次代をつくる
ビジョン （目指す理想の状態） 個人のウェルビーイングと社会のアップデート ○ビジョンを実現するための環境（コミュニティ）の構築 本プロジェクトのコミュニティに、豊富な経験と知恵を持つパートナーを実装する ○コミュニティ構築により実現したい理想の状態 ①メンターシップによる教育エコシステム「Learning Accelerator」を機能させる 「個人のウェルビーイングと社会のアップデート」実現に向けた具体的なアプローチ ②生徒が培うべき4つのコアコンピテンシーを育成する 個人的能力を中心とする創造性と批判的思考 対人的能力を中心とする効果的なコミュニケーションと効果的なインタラクション 創造性：新たなアイデアや解決方法を生み出す 批判的思考：アイデアや解決方法に疑問を投げかけ評価する 効果的なコミュニケーション：言語を効果的に用いる 非言語的コミュニケーションを効果的に用いる 効果的なインタラクション：交渉や説得のように他者に特定の効果を与えるなど、 単なるコミュニケーション以上のものを含み、 チームとしての働きを促進したり、 不公平な実践を認識し、それを減じたりすることもある ※倫理的な決定が極めて重要な役割を果たす

4つのサブスキル探究、想像、実行、省察を実践しながら、コアコンピテンシーを育成する

創造性：「想像」に重点を置き、アイデアや代替案を生み出す

批判的思考：「探究」に重点を置き、分析的かつ体系的側面を含めて問題を理解し考える

コアコンピテンシーの土台となる認知的スキル（さまざまな学習経験において発達させるスキル）も「実行」と「省察」のなかで、自動的（意識的に考える必要がない）に発動されるようになる

例）自分の知識をモニターし、どんな情報が不足しているのか、自身に問う。

よりよく理解するためにはどうすればよいか、自身に問いかける。

様々なタイプの情報を前にして、そのうちどれが最も信頼性が高いか判断する。

情報を用いる際に、最も信頼できる出典を選択する。

文脈やオーディエンス（相手）に合わせて、口頭や文書での表現の仕方を変える。

バリュー（共有する価値観）

新たな価値と知恵の創発

○本プロジェクトでもたらしたいインパクト

メンターシップによる教育エコシステム「Learning Accelerator」の創生

これにより、生徒が、世界のために批判的な知恵を創発する

学校が、高校教育の新たな価値を創発する

本コミュニティの学びと成長の原動力は「Find your Why」

フェーズ①（ガイダンス・オリエンテーション）

世界観や視野の変化を刺激することを意図し、概念、トピック、人、または視野を生徒に紹介する。自分の関心と共鳴するミッションをもつパートナーと協働しながら、能力を構築していく。

フェーズ②（各講座に分かれての探究活動）

4～5人のチームを構成して学んだことを統合し、それを焦点化された課題や問いに適用する。

探究活動では、生徒とパートナーとの間で直接、指導・口頭試問・総合を行う。このチュートリアル（個別指導）によって、生徒がその分野について深く学び、考察を繰り返すことができるようになる。

フェーズ③（探究成果の発表に向けて）

生徒は情熱的になれる課題を見出し、自分のエネルギーをそこに焦点化する。

生徒が世界を探索し、そこから学び、影響を与えることを助ける仕組みを提供する。

アウトプット

プロジェクト全体を通して、自らの学びの目的を特定することを生徒たちに促す。

企画：BEING ALIVE フェス 2024

内容：全13講座、第1学年全員が、自身の探究成果について広く発信する。

校内での成果発表会（BEING ALIVE フェス 2024）に加えて、講座ごとにアウトプットの機会や交流の機会を設ける。

メッセージ

高校生が大人を恒常的に学び超え、

学校から社会へと飛び出していくことを期待します！

01 予防医療と医療の個別化がもたらす未来

パートナー 北海道大学病院パーソナルヘルスセンター副部長 西田 睦氏
パーソナルヘルスセンター教職員 今野部長、山田副部長、横田医師、中村医師、松島／岩田医師、向野医師、由利技師長、熊谷栄養管理部副部長、岩井／猪股技師等（案）
ミッション（存在意義を定める） ウェルビーイングな人生を送るためには自身と家族の予防医療が大事であることを認識する 病気のリスクは個々人で違うため、自分の現在の健康状態と病気のリスクを知って自ら取り組めるようになる
ビジョン（目指す理想の状態） 自分を含め社会全体が個々人の健康や病気のリスクを認識する
バリュー（共有する価値観） 個別化予防医療は、毎日の食事、運動から始めることができる
フェーズ① 遺伝子を用いた予防医療と疾患リスクについて知る
フェーズ② 高血圧、ダイアベティス、認知症について知る
フェーズ③ 高血圧、ダイアベティス、認知症といった疾患を予防するためにはどういった食事をしたら良いのか 運動は何をしたら良いのか、具体的な方法を学び考えていく
アウトプット 企画：北海道大学サイエンスフェスタ 2024年12月14日（土）・15日（日）の2日間の内、PHCの発表パートにおいて 札幌地下歩行空間（チカホ）にて発表 内容：1チーム5分程度、札幌市民に対し、自分たちの学びを発表する
メッセージ 自身と家族がウェルビーイングな人生を送るために何をしたら良いのか、高校生の視点で考えてみましょう！

02 誰もが自分らしく安心して暮らせる地域をつくる

パートナー 氏家記念こどもクリニック精神科医 梅本 萌李氏
ピアサポーター（メンタルヘルスの課題を抱えながら地域で活躍されている方）
ミッション （存在意義を定める） 「誰もが自分らしく安心して暮らすために必要なこと・できることは何か」を追求する 要素：自分を認めること（自尊感情・セルフコンパッションの醸成） 他者や多様性の受容 メンタルヘルスの理解 精神疾患の基礎的知識の獲得
ビジョン （目指す理想の状態） 自分も含め誰もが自分らしく安心して暮らせる地域（コミュニティ）をつくる
バリュー （共有する価値観） 誰もが健やかに生活し、より良い人生を送る
フェーズ① はじめに受講者へアンケートを取り、自身に抱えている思い、メンタルヘルスや精神疾患に関する認識等を確認し、パートナーが集約する。アンケート結果は、個人が特定されない形でパートナーから受講者へ提供・共有し、結果を踏まえて「自分も含め誰もが自分らしく安心して暮らすために必要なこと・できること」をパートナーも含めたグループ全員で検討・抽出していく。検討・抽出の過程では、必要に応じてパートナーから医学的説明をするほか、国内外の先進的な取り組みについてグループで調べる等してヒントを得ながら、自由な発想でアイディアを出していく。
フェーズ② 出されたアイディアの中から、高校生が主体的に取り組めそうなことを選択し、実現に向けて具体化していく。
フェーズ③ 具体化したことを可能な範囲で実行し、自身や周囲の変化を評価する。パートナーは受講者にフェーズ①同様のアンケートを取り、受講前後の変化について集約の上、受講者へ提供・共有し、その結果から更なるアイディアを生み出す。
アウトプット 心理学・精神医学関連の研修会・学会等
メッセージ 高校生の皆さんの率直な思い、自由なアイディアは、無限大の可能性を秘めています。今、そして未来の自分や誰かのためにきつとなる「誰もが自分らしく安心して暮らせる地域づくり」について、一緒に考えてみませんか？

03 プレコンセプションケア

パートナー 国立成育医療研究センター母性内科医師 三戸 麻子氏
プレコンセプションケアジャパン SHU プロモーション
ミッション（存在意義を定める） 高校生が、プレコンセプションヘルスケアの知識をつけて、地域社会に、健康で満たされたつながりの文化を生み出す
ビジョン（目指す理想の状態） 高校生のリプロダクティブウェルビーイングを達成する
バリュー（共有する価値観） 高校生を中心としたプレコンセプションケアが当たり前の社会 すべての人が真の健康（Bio-psycho-social health）を得られる社会
フェーズ① プレコンセプションケアとは何か、その目的は何かを知る プレコンセプションケアを行うことで達成できることを知る
フェーズ② プレコンセプションケアに関する知識・話題について他者（友人・家族・パートナー等）と共有する
フェーズ③ プレコンセプションケアを実践できるようになる
アウトプット ※検討中
メッセージ 将来妊娠・出産することを希望してもしなくても、妊娠・出産に関する正しい知識を得ておくことは、自分や相手を守るためにも大切なことです。プレコンセプションケアを学び、すべての人が身体的にも心理的にも社会的にも満たされた真の健康を得られるように、一緒に学びましょう！

04 ワンヘルスで考える動物と人とのより良い関係

パートナー 酪農学園大学 獣医学群 獣医保健看護学類
ミッション （存在意義を定める） 自身を取り巻く環境での動物との関わりにおいて、自分にどんなことができるのか、その環境の中で自分がどうありたいのかを考える。
ビジョン （目指す理想の状態） 動物のウェルフェアと自身のウェルビーイングのより良い関係
バリュー （共有する価値観） 身近な動物との関わりと、それを取り巻く環境からワンヘルスを考える
フェーズ① 伴侶動物だけでなく、身近にいる様々な動物がおかれている状況、そしてそれらを取り巻く環境について、動物福祉の観点から理解する。
フェーズ② 様々な場所、状況における動物と人との関わりについて理解し、そこで発生する問題点・課題について考える。
フェーズ③ 動物がおかれている状況・環境や、動物と人との関わりとのつながりについて考え、動物と人のより良い関係について提案する。
アウトプット 企画：サイエンスファーム 2025（酪農学園大学） 内容：自身の探究成果について、全国からの参加高校生に発表する。
メッセージ 自身の好奇心に従って探究することで、身近な動物とのより良い関係について考えるきっかけになることを期待しています。

05 野生動物と共生する そのための道民リテラシーとは

パートナー 北海道大学大学院教育推進機構オープンエデュケーションセンター [CoSTEP] 池田 貴子氏
【連携高校】 北海道札幌啓成高等学校、北海道網走南ヶ丘高等学校 他
ミッション （存在意義を定める） 生き物の多様性を理解し尊重できるような自分なりの自然観を醸成する。
ビジョン （目指す理想の状態） 野生動物と人間社会のあつれきが大きくなってきた現代において、自らの身を守り住みよい地域社会をつくるためのリテラシーを身につける。
バリュー （共有する価値観） 自分の地域の身近な獣害問題について知り、どんな困り事があるのかを整理する。
フェーズ① 現在、北海道で特に問題となっている野生動物とのあつれきについておおまかに理解する。また、一口に野生動物といえども、動物種や地域によって問題の本質や留意すべき点がそれぞれ異なることを理解する。以下は例。 ・クマ（観点：街に出る場合と山で遭遇する場合では問題の本質が異なる） ・キツネ（観点：アーバンフォックスは山を追われて街に来たわけではない。エキノコックス） ・外来生物（観点：法律によって積極的な駆除努力が求められているが殺生には葛藤が伴う）
フェーズ② 自分が住む地域がかかえる獣害問題をリサーチする。 ・インターネットで調べる ・家族や地域の人にお話をきく
フェーズ③ 問題が起きている場所と内容を地図にプロットする。
アウトプット 複数地域の高校と協働で、各地域の獣害問題を共有するイベントを開催する。
メッセージ 野生動物が引き起こす問題には様々な種類・側面・原因があります。これさえやれば大丈夫！といった単純な解決策はない場合がほとんどです。しかし難しく考えずに、まずは自分の地域で何が問題となっているのかを理解するところから始めましょう。

06 北海道という地域特性を踏まえた防災・減災

パートナー 札幌市立大学看護学部 鬼塚 美玲氏 札幌市立大学看護学部 市戸 優人氏 札幌市危機管理局
ミッション（存在意義を定める） 北海道（札幌市）で生活する人々の生命や避難生活を守るための「防災・減災への備え」を高校生の新たな視点で捉え、地域へ発信する
ビジョン（目指す理想の状態） ・北海道（札幌市）の地域特性にマッチした「防災・減災への備え」の啓発・普及 ・防災・減災を担う次世代の人材育成
バリュー（共有する価値観） ・防災・減災に対するアンテナを高める ・人々の生命や避難生活を守るための「防災・減災への備え」を目指し、メンバーと協働する ・リーダーシップ&メンバーシップを発揮する
フェーズ① ・災害および防災・減災に関する基礎的知識を知る。 ・北海道や札幌市の地域特性、想定される災害、地域防災計画を知る。
フェーズ② ・災害が人々に及ぼす影響を知る。 ・災害における災害医療・災害看護の役割を知る。 ・厳冬期の避難所生活を一部体験し、避難所の運営上の課題を考察する。 ・北海道や札幌市における防災・減災の課題を考察する。
フェーズ③ ・北海道や札幌市の地域特性をふまえた「防災・減災への備え」を提案する。 ・「防災・減災への備え」を啓発・普及するための方策を開発する。
アウトプット ・札幌市危機管理局を対象とした発表会（行政への提言） ・啓発・普及のための成果物
メッセージ 2018年9月6日に発生した北海道胆振東部地震の際、「真冬じゃなくて本当に良かった」と感じた人は多いのではないのでしょうか？ 北海道で厳冬期に災害が発生した場合、災害による被害だけでなく、雪や寒冷環境による影響も加わり、私たちの生命・生活は様々な脅威に晒されます。自分や家族、地域を守るために、『地域特性をふまえた防災・減災への備え』について一緒に考えてみませんか？

07 高校生が拓げていく未来へのアクション

パートナー 一般社団法人 SWiTCH 佐座 槇苗氏
【連携企業】 UCC ジャパン 願能 千瑛氏 石屋製菓 株式会社 亀村 建臣氏
ミッション （存在意義を定める） 社会で大きな課題となっている環境問題に対して「高校生は何ができるのか？」について考察し行動する経験を積む
ビジョン （目指す理想の状態） ソーシャルイノベーションを起こす動機と能力を持ち合わせた人材育成
バリュー （共有する価値観） 世界市民としての環境問題意識と社会を変革するための行動経験を獲得する
フェーズ① 世界の環境問題の今と、企業の取り組みについて話を聞き、今後の世界で必要な環境リテラシーについて理解を深める。
フェーズ② 環境問題解決に向けたボトルネックを特定し、その解決のために必要となるアクションを考える。
フェーズ③ 高校生が地球一個で暮らせる未来をつくるためにできるアクションを実践する。
アウトプット 企画：TechBBQ Sapporo 2024 内容：講義をもとに、学内を巻き込んだ環境アクションを実践し、その結果を発表する。
メッセージ 「地球一個で暮らしていくために何ができるか？」 社会で活躍する企業の人と一緒に考えてみましょう！

パートナー 北海道大学大学院農学研究院 NTT グループ 日立北大ラボ 岩見沢市情報政策部 岩見沢市内の高校生
ミッション（存在意義を定める） 地域社会 DX で、自分たちが活躍する「未来社会」をデザインする
ビジョン（目指す理想の状態） 住みやすく、幸せな「まち」がどのようにあるべきか、未来社会の在り方を自らが創造する
バリュー（共有する価値観） 地域社会の持続性確保を推進する
フェーズ① 地域コミュニティや産業経済活動において、ICT やデジタル技術が「いつのまにか・知らずに」急速に普及し不可欠な社会基盤となるなど、世界的にも社会変革が始まってきている。高校生が「自分ごと」として認識し、自らが「未来社会を創出していく」という意識創発のため、健康データプラットフォームやスマート農業研究者など最先端の専門家や活用者との対話のもとファクトやエビデンスを知るなど現在の社会動向を理解する。
フェーズ② 現在を知った上で、自分たちが活躍する「未来社会」がどうありたいかをデザインしてみる。その際、利己的ではなく、地域コミュニティがどのようにあるべきかをテーマに、他者（ひと）とともに幸せな生活を創出することをビジョンとしながら、そのためのアセットとして地域資源やデジタル技術をどのように活かせるかを探究する。
フェーズ③ 多くの他者（ひと）とともに（一緒に）幸せになるためには、どのような地域コミュニティ社会を創出していくべきか、異なる地域社会との対話や情報交換等を通じ、互いに学びあいながら協働していく手法を確立する。
アウトプット 岩見沢市内の高校生との対話や情報交換 ※検討中
メッセージ 自分達の「未来社会」を自らがデザインし、具体化に向けたプロセスをコミュニティで共有・実現していくことを期待します！

パートナー 北海道大学産学・地域協働推進機構スタートアップ創出本部 主担当：椎名 希美氏 杉村 逸郎氏、岩城 圭司氏、白石 瑛人氏、久保 ななみ氏
【連携企業】 大塚製薬・札幌ヤクルト販売・平岸ハイヤー
ミッション（存在意義を定める） 変動が激しく不確実性の高い現代において、変化に柔軟に対応し新しい価値を生み出すことができるアントレプレナーシップ（起業家精神）を持った人材として成長する。
ビジョン（目指す理想の状態） 社会にインパクトを与える価値共創の実現。
バリュー（共有する価値観） 高校や授業という枠組みを超えて一つの個として自分を捉え可能性を追求する。 他者と協働して個の力を活かし合うことで成果を上げる。
フェーズ① ビジネスや起業家の事例など価値創造を実践する他者の経験を共有することで、すでに自らが社会にとって価値を提供できる存在であるということを認識し、アントレプレナーとしての態度を獲得する。
フェーズ② 体系だった価値創造プロセスを、ワークブックやゲーム等を活用し経験することで態度に加え、知識・スキルを獲得する。具体的には、課題の明確化、ターゲットの設定、仮説立案、ニーズ調査、MVP 開発、仮説検証、改善の一連の過程を繰り返す中で自らが生み出したアイデアのブラッシュアップを続ける。価値創造には常に行動することが重要であり、実践が伴うことであることを認識する。 【テーマ】 大塚製薬チーム：「アイデア爆誕！健康増進・疾患対策プロジェクト」 例：健康食品の開発・熱中症対策アイデア立案 ヤクルトチーム：「食育・健康増進をアップデート」 例：食育に関するイベントの実施やアイデアの立案・生活習慣の改善提案 平岸ハイヤーチーム：「マルシェを活かして豊平区を活性化せよ！」 例：商品やサービスを開発・収集してマルシェで出店 ※チーム編成は希望を考慮して実施します。必ずしも第一希望とならない場合があります。
フェーズ③ 具体的な商品やサービスアイデアを魅力的に提案することや実践的にプロトタイプ等を販売することを通じて、自らが生み出したアイデアが社会にとって価値あるものであるということを他者に伝え共感を得る。

アウトプット

大塚製薬チーム：道教委主催発表会（中間発表 9 月・11 月、最終発表 1 月を予定）での発表

ヤクルトチーム：道教委主催発表会（中間発表 9 月・11 月、最終発表 1 月を予定）での発表

平岸ハイヤーチーム：道教委主催発表会（中間発表 9 月・11 月、最終発表 1 月を予定）での発表
平岸フェスでの出店

※1 月の発表会で優勝した場合は、2 月に実施される「探究チャレンジ・アジア」でも発表

上記に加え、北海道大学が実施するイベントでの登壇、学会での発表を相談の上、実施する可能性がある。

メッセージ

「めんどくさそうだな…。」「なんか難しそうだな…。」よりも「ちょっとだけ面白そうかも。」「なんか気になった。」「アントレプレナーシップって何???」が、少しでも上回ったそのあなた！
滅多にない機会を最大限活かして、新しいビジネスを生み出す楽しさを一緒に体験しましょう。
私たちも挑戦する人を最大限サポートします。

パートナー 北海道大学 COI-NEXT「こころとカラダのライフデザイン拠点」
【連携高校】 台湾・景美女子高校
ミッション（存在意義を定める） 一人ひとりが人生で大切にしている価値観に目を向け、自らの言葉で表現出来るようになる。自らと他者の違いに触れ、認め合うことで自らの新しい将来を想像し、他者とのより良い関係性を築く。
ビジョン（目指す理想の状態） 同世代の若者同士が対話を通じて、世界とともに生きる仲間としての自覚を持ち、つながり合う。
バリュー（共有する価値観） 台湾の生徒との交流を楽しみ、交流から違いを感じ、学ぶこと。 また問いを持つことを楽しく感じられること。
フェーズ① 自分の価値観について考える 人生を考える上で身近なテーマである「ジェンダー」「家族」「キャリア」それぞれの領域について、自らが興味あるテーマを選び、グループに分かれて活動する。グループの中で、その価値観に対する自らの考えや思いについて共有し、生まれた疑問・問いを纏める。
フェーズ② 他者との価値観を交換する 台湾・景美女子高校の生徒と同じテーマグループ同士でオンライン交流する。それぞれの価値観に対してお互いの思いや考え、そして生まれた疑問・問いについて共有・意見交換する。 （※オンライン交流は複数回実施予定。時差の関係で授業外の時間になる可能性がある。）
フェーズ③ 違いを認め、未来に向けて考える 交流で得られた違いや学びを踏まえて、その価値観に対する自らの考えや思いを新たにし、「疑問・問い」に向き合う。3つのテーマに対して生み出された問いを一覧にし、それらの中から、自らの人生・未来にとって重要な問いを見つけ、その問いがなぜ重要なのか考え、発表する。
アウトプット 2025年2月に札幌で開催される「国際こども未来会議(仮称)」にて、 交流した台湾・景美女子高校の生徒と一緒に、今回対話した内容を発表 or 展示する。 （形式は検討中）
メッセージ 自分の人生を生きることは他者とともに生きることです。台湾の高校生との交流を通じて、世界と交流する事の楽しさ、そして自分の将来を豊かにするプロセスを楽しんでほしいです。 英語へチャレンジしたい人も大歓迎！一緒に語り、学び合いましょう！

11 シリコンバレーとつながる マインドのアップデート

パートナー CEO & President B-Bridge International, Inc. CEO Silicon Valley Japan College 梶本 博之氏 B-Bridge International のメンバー、Silicon Valley Japan College のメンバー及びその講師陣
ミッション （存在意義を定める） 日本の地方からシリコンバレーと直接つながり、日本の常識に囚われないグローバルなマインドを醸成する
ビジョン （目指す理想の状態） 日本にシリコンバレーを創るのではなく、日本からシリコンバレーを活用できる人材の育成を行うと共に、海外のネットワークを拡張する
バリュー （共有する価値観） 様々なイノベーション（常識を覆すこと）を生み出すことの出来る人材育成
フェーズ① シリコンバレーの成り立ちや現在の状況を把握し、当地におけるアントレプレナーシップの根源はいったいどのようなものであるかを考察する
フェーズ② アントレプレナーシップとはいったいどういったマインドから成り立つのかを学び、マインドブロックの外し方や、日本の常識と世界の常識の違いを学ぶ
フェーズ③ 具体的なビジネスプランを構築する上で必要とするネットワーキング力、プレゼンテーション力、デザイン思考などを習得する
アウトプット シリコンバレー在住者や経験者とのネットワーキング
メッセージ まずは、いったい何がやりたいのか、それを行う上で何を習得すべきかを考えながら、キャリアデザインを考えながら、将来の設計を一緒に考えましょう

パートナー 時事通信社編集委員 坂本 建一郎氏
情報経営イノベーション専門職大学特任教授：徳本昌大 ジャーナリスト／情報経営イノベーション専門職大学専任講師：松村太郎 大広取締役執行役員・マーケティングデザイン本部長：鬼木美和
ミッション（存在意義を定める） 主体性（エージェンシー）を発揮しながら、自分軸で自身の人生（キャリア）を構築する。
ビジョン（目指す理想の状態） 柔軟性を持ちながらも、自己決定とトライアンドエラーを繰り返し、よりよい状態を常に目指す状態を保持する。
バリュー（共有する価値観） 自他を共に大切にすることができ、偏見や不正義が改善される世界を生み出す。
フェーズ① 人口減少社会に入った日本は、先行き不透明な環境（VUCA）下でこれまでの成功例がすべて失敗の種になる可能性がある。社会の鋳型に自分をはめるのではなく、創発的な人生の在り方について、先行例を検討する。
フェーズ② オーラルヒストリー等の方法を用いて、自らの人生のロールモデルとなりそうな人物を考察する。
フェーズ③ 魅力的な人物の「キャリア」において何が重要であったのかの要素を検討する。
アウトプット amazon 等で電子書籍を出版
メッセージ 与えられるものではなく、自分からつかみ取る価値を探しましょう。そのための方法論や TIPS をお伝えします。

1 3 Tell Your own Stories with Art! アートで想いを伝えよう

パートナー

グラフィックデザイナー 渡辺 光陽氏

シンガーソングライター naia*mao 氏

ミッション（存在意義を定める）

アートというツールの使い方を学び、創作を通じて心の深いところにある想いや、知らなかった自分を知る。新しい自分発見が、将来を考えるヒントにもなると同時に、答えが一つではない物事を考え、深め合う時間を共有する

ビジョン（目指す理想の状態）

視野や見識を拓けて、自分にしかできないことは何かを考える

一人ひとりがかけがえのない唯一無二の存在であることを認識し、互いを尊重する社会を先導する

バリュー（共有する価値観）

変化のスピードが速い世界でも、流されずに生きる力を養う

繊細な感性を持ちながらも、広い視野で柔軟に他者と接するコミュニケーション力も合わせ持つ

フェーズ①

感情、知覚、想像力を研ぎ澄ませる

- ・同じ曲を聴いて、イメージする絵を描いてみる。全く同じ絵を描く人は一人もいないだろう
- ・言葉にならない想い、直接的に言葉で伝えにくいことを、物語としてフォトコラージュしてみる

フェーズ②

日常の延長線上にある、相互理解のためのツールとしてのアート

表現したことを共有し、コミュニケーションする中で洞察力を養う

- ・どのような視点で観るか（着眼点）
- ・どんな質問をするか、自分ならどんな質問をされたいか

フェーズ③

表現の引き出しを増やし、物語の世界観をより効果的に伝えてみる

絵画（イラストや漫画含む）、詩、サウンドコラージュ、身体表現、何か手作りするなど表してみる
想いを伝える、問題提起する手段として、自分だけのストーリーを盛り込む

アウトプット

BEING ALIVE フェス 2024 での発表に向けて取り組みながら、外部のワークショップやアート情報を随時共有。また、アーティストインタビューの YouTube チャンネルを始動予定、出演アーティストやクリエイターへの質問も受け付ける。

メッセージ

言葉にならない想いを伝えるための、自分だけの方法を見つけてください。あなただけのストーリーに共感してくれる人がいます。きっと人生が何倍も豊かになるでしょう。こんな考え方やアイデアがあったんだ！そんな新しい発見をみんなで楽しみましょう。